令和５年（2023 年）12 月 22 日
第３回　文化財専門審議会
資料２

円通寺跡確認調査の状況について

１.調査名：円通寺跡確認調査　　２.調査担当：生涯学習課　礒口、青木
３.調査期間：７月３日～７月 21 日　　４.調査面積：23.5 ㎡
５.調査目的：中世および近世の円通寺の遺構確認
６.調査結果：中世相当と思われる地業面（造成面）と南北方向の広がりを確認。
１号やぐらの隣で現在清雲寺にある板碑を差し込んでいたと思われるほぞ穴を確認。
７.出土遺構・遺物

・地業面（写真３、写真４）

泥岩を敷き詰めた造成土層。泥岩が敷き詰められ非常に硬くしまっている。厚さは 20～30cm。泥岩礫層の下も簡易的であるが互層状に土を積み重ねている。地業面南端は TP4 で検出され、地業面が一段高くなっている状況を確認。北端は TP2 で検出したが、明確な段差は確認されず、後述する縁石との位置関係から後世削られた可能性も考えられる。

・縁石の可能性がある石列（写真５）

上面が平滑な凝灰岩列。礎石や礎石抜き取り穴らしきものは確認されなかった。

・かわらけ

14 世紀代のものを中心に出土。多くが表土中から出土。表土以外では、TP4 地業面南端の先の黒色土層からのものと、TP5 最下部からのものがある。TP5 最下部から出土したものは小片であるため確定的ではないが、胎土から 13 世紀後葉に遡る可能性がある。13 世紀後葉であれば清雲寺板碑の年号（1271 年）と整合する。

・川原石

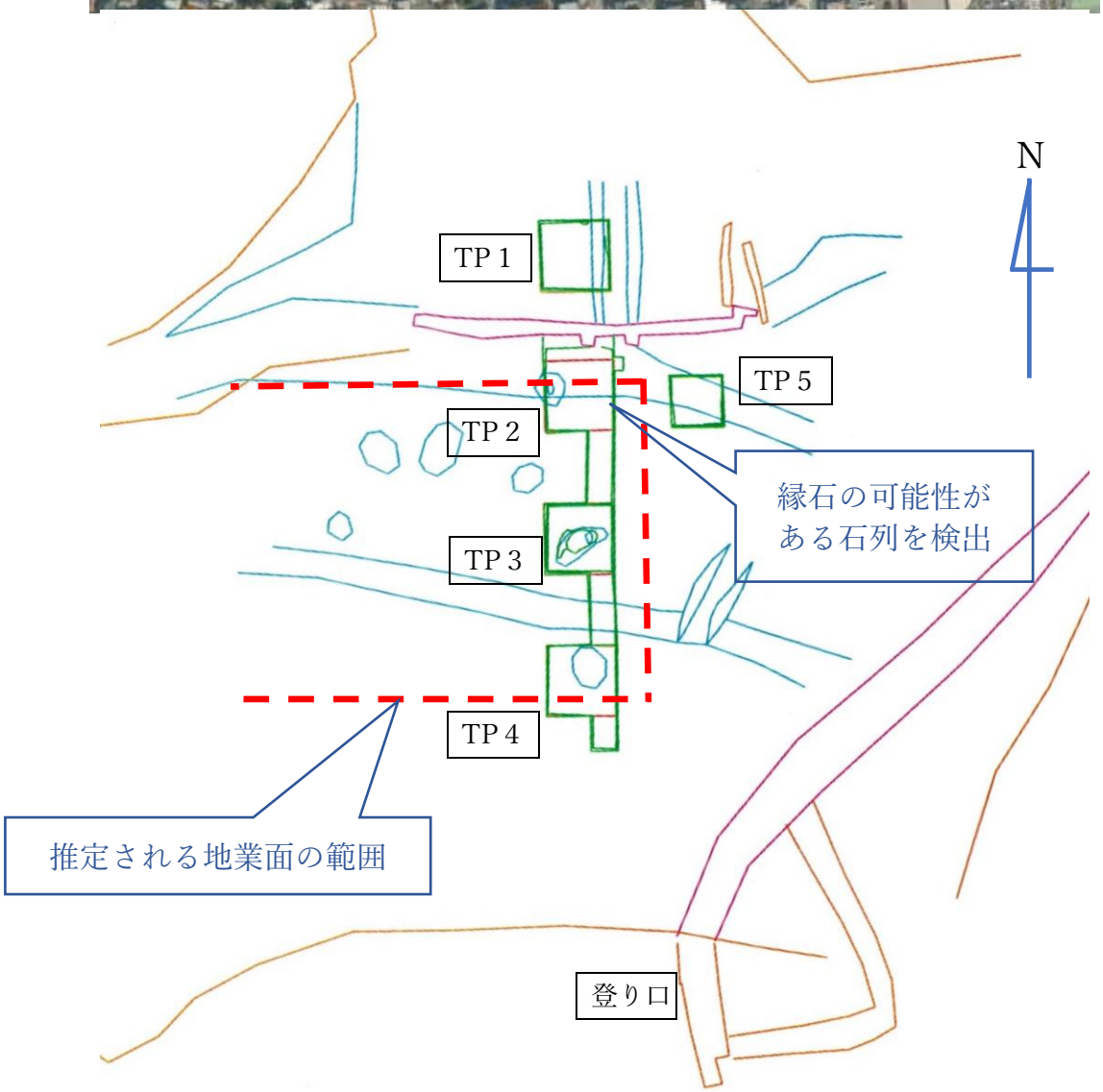
安山岩（？）のものが数点出土している。三浦半島に産出しない石であり、写経石と考えられるが、いずれも墨書は確認できていない。

（調査区外）

・ほぞ穴（写真６）

１号穴付近の岩盤にほぞ穴を確認した。ほぞ穴は鋭角で丁寧に加工されている。清雲寺に移された板碑のほぞ穴と考えられる。

調査地点

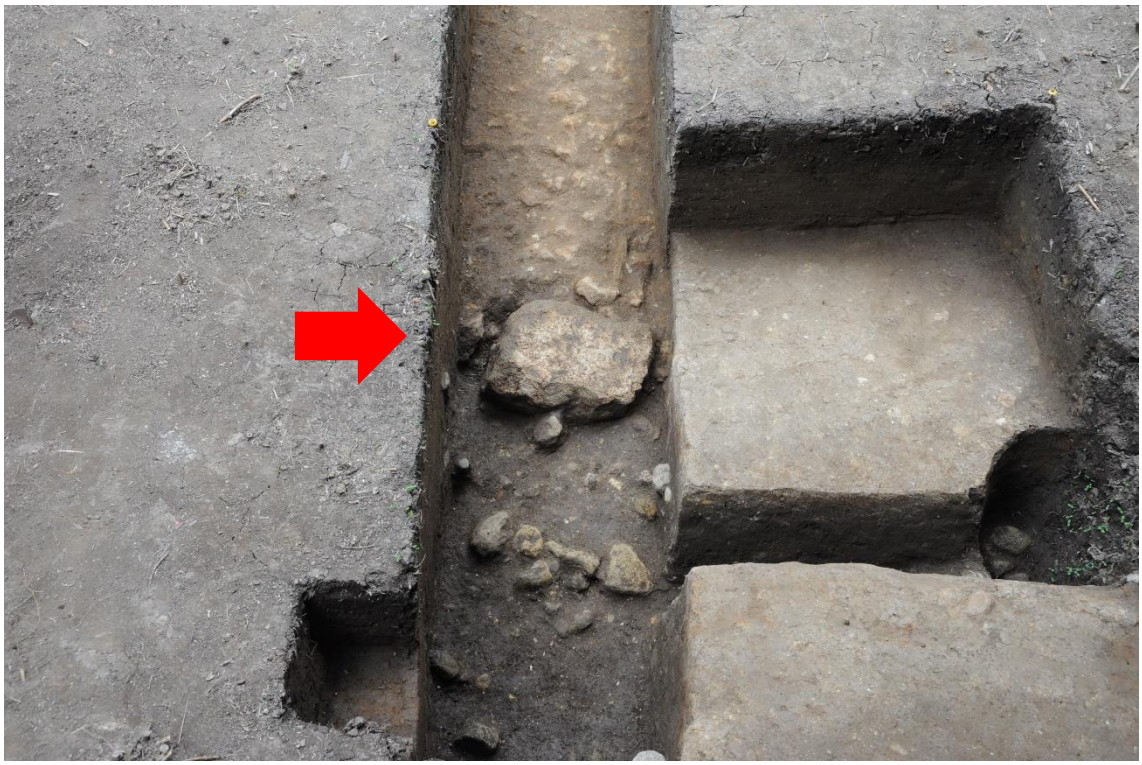

N
TP 1
TP 2
TP 3
TP 4
TP 5
縁石の可能性がある石列を検出
推定される地業面の範囲
登り口

１.調査区全景　北東から。当初の想定以上の広がりを確認した。

２.調査区全景　南から。

３.地業面南端　TP４北から。地業面とその外側で土の色が変わる。

４.地業（造成）面の断面　TP３～４の間。泥岩礫の厚さ２０～３０ｃｍ。
その下も互層に造成されている。



5.縁石の可能性のある石列　TP２北から。凝灰岩性で上面は平滑。

6.１号穴向かって右側の納骨穴と板碑のほぞ穴。